

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る力はあるが、読み取ったことを基に自分が考えを表現する力を高める必要がある。 ・文章全体の構成を考えたり、意見と事実を整理して作文したりすることを苦手とする児童がいる。 ・自分の考えを伝えることはできるが、友達の考えを認め、よりよい考えを創出することに課題がある。 ・漢字を正確に書く力、語彙力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取った後、ペアや小グループを作り、自分がどう感じたかを相手に伝える時間を確保する。 ・文章の構成の仕方などを身に付けるため、文章や短文を視写する場を設定する。 ・話し合いが活発になるよう、教師から児童に、「なぜ」「根拠は」等の問いかけを常に行う。 ・学習の感想をもち、自己の振り返りができる時間を設定する。 ・けやきタイムを活用し、主語、述語、修飾語について再度学習したり、短文作りを行って書く力を付けたりする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象に関心の高い児童が多い。 ・資料から、適切な情報を読み取ることに課題がある。 ・情報の整理の仕方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像図や写真資料等を、ICT機器を活用して効果的に捉えられるようにし、気付いたことを交流することで、様々な見方ができるようにする。 ・時代背景や人々の思いについて考える発問を行い、当時の思いと現代を繋げて捉えられるようにする。 ・見やすいノートを紹介し、よさを具体的に伝える。 ・学習の感想をもち、自己の振り返りができる時間を設定する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題において、立式の根拠を説明することに課題がある。 ・前学年までの学習内容の定着が低いところがある。特に、単位量当たりの考え方や、複数の資料を関連付けて問題に対する結論をまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立式の根拠を説明できるように、ヒントとなる既習内容等を、ICT機器を活用して効果的に捉えられるようにする。 ・立式の理由や計算の方法、考え方を相手に伝えたり、根拠をもって話したりする活動を設ける。 ・東京ベーシックドリルを用いて、既習内容の定着を図る。 ・データに基いて身の回りの問題を解決する活動などを設定する。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の感想をもち、自己の振り返りができる時間を設定する。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組む児童が多い。 ・実験、観察結果から考察することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を基に、学習のめあてを達成することができるよう、考察を促す。 ・より適切な考えをつくり出すために、自分の仮説が正しかったかという視点を与え、実験結果を分析して考察する。その内容を記述する活動を設定する。 ・学習の感想をもち、自己の振り返りができる時間を設定する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・正しい手順や技能で製作することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で実践した内容や、改善策を話し合う時間を設定し、よりよい生活を考えられるようにする。 ・班の構成を工夫することで教え合いができる考える。 ・図や映像資料等を、ICT機器を活用して分かりやすく示し、作業手順等を確実に捉えられるようにする。 ・学習の感想をもち、自己の振り返りができる時間を設定する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に意欲的に取り組む児童が多い。 ・思考面に課題がある。作戦に基づいた連携ができていない。 ・ボール運動のゴール型では、ボールを持たない動きに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や映像資料等を、ICT機器を活用して分かりやすく示し、運動の行い方等を確実に捉えられるようにする。 ・ドリブルを使わないゲームを導入段階で設け、空いているスペースを見付けられるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽とも意欲的に活動をしている。 ・自分の表したい音楽を友達に伝えること、そして友達の音楽と調和させることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で音楽を分析する時間とペア学習やグループ学習により互いの考えを学ぶ時間を設ける。 	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・友達によさに気付くよう教師が言葉掛けを行う。鑑賞タイムを設定する。 	

